

第2回 豊前市立学校通学区域審議会の要点記録

日時 令和4年8月5日(金)10時～10時40分

場所 豊前市役所 3階 大会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議会委員の変更について

4. 議題

①前回（第1回）の要点について【別紙1】

事務局説明後、質疑

委員：この計画通りに学校に行くところが決定されたということか。

地区の小学校を残してほしいという意見の検討はここではせず、事務局で計画通り進めていくという方向なのかお聞きしたい。

事務局：現在のところ答申があった計画通り進めている。各地区でご理解をいただきたいと説明しているように、変更は今のところ考えていない。

委員：私見だが、地域にそういう意見があるかどうかかわからないが、生徒数、児童数の関係でこれは進められているが、財政面から考えたときはどうなのか。三毛門小学校区を北小学校に、中学校は吉富中学校にという提案になっているが、財政的にどうなのか。吉富中学校への負担金が年約4000万円弱ある。この案が通れば、三毛門小学校は、北小学校に行くためにスクールバスを相当数出さないといけない。その費用を加味したら逆でもいいんじゃないか。三毛門小学校を残し、吉富中学校でなく新しい中学校に行かせる。そういう考え方も財政面ではいいのではないかと考えるが。

事務局：今回の答申は、子どもたちの教育環境を最優先にして作っていただいた。

ただ、財政のことを全く考えないわけではなく、現在ある14校と吉富中も含めた15校を全部建て替えるとか長寿命化するというのが、結果的には財政的にも厳しい負担になると思われる。

参考までに苅田中学が今度長寿命化をするようにしているが、1校で15億円。建て替えると現在のところ40億円ぐらいが考えられるが、長寿命化しても1校で10億かかるので、15校全部というわけにはいかない。今回の計画は将来的に10年後20年後には、財政的にも考慮されていると考えている。

委員：地域のことも考え、10年か20年は小学校を残してもいいのではないか。

事務局：地域のことはどうでもいいということではない。市として、地域のこともしっかり考えていきたいが、一つの学校としては、もう各地域で成り立ってないと考えられるので、これはご理解いただきたい。

吉富中に関しては、相手方があるので、急に三毛門からは行かないとか、急に負担金を出さないよとか、そういうわけにはいかない。別の議会もあるので十分住民の方に理解をしていただきながら相手方の議員さんたちにも理解していただきながら進めていかなくてはいけない。

ただ新しい学校ができれば、吉富中も小規模校になるので、三毛門地域の方も新しい中学校に行きたいという方が増えてくると予想しており、それに向けてはスムーズに行くように吉富と協議していきたいと考えている。

委員：三毛門が来なくなれば、吉富町は、小中一貫校をつくるというような話も聞いている。新しい中学校ができたから、三毛門地区も中央中というような形で進めてもそんなにはおかしくない。

進学する子どもたちの状況を見ても、三毛門小学校区から中津市の高校に例年4、5人ぐらい、本年度は8名ぐらいしか行っていない。

財政面についても十分に考えて、もっと幅広く考えてほしいと思う。

会長：この点については、教育みらい検討委員会を立ち上げて議論し、答申が出され、各地域で説明会をし、その中で皆さん方の要望意見を汲み上げて、今回の通学区域審議会というのが立ち上げられている。再編への意見は市政懇談会とかいろんな所を出していき、今回の通学区域審議会においては、できるだけ通学区域についての審議を重点にしたいので、よろしく願いたい。

②通学区域について【別紙2－1、2－2】

事務局説明：

【別紙２－１】規則に定められている現在の通学区域で、各学校の通学区域を大字で表したものである。

別表の下に《参考》と書いている表は、規則にあるものではなく、旧町村で分けた大字で小学校区の基準となったものである。

【別紙２－２】基本方針の中で提案している校区で【別紙２－１】を基に大字であらわした表。北小校区の大字今市、大字荒堀、大字吉木、大字梶屋、青豊地区はどちらの小学校区にも入っているが、入学時にどちらかを選択することになる。

中央小学校区も同様。

中学校区、義務教育学校区、吉富中学校区も先ほど別表２－１をもとに現在の校区をそのまま写したのになっている。

③スクールバスについて【別紙３】【別紙４】

事務局説明：

【別紙３】今現在考えている開校時のスクールバスの乗車の児童生徒数の見込み。

令和10年度小学校のスクールバスの乗車児童数は、今現在の住所地で進学した場合の人数で、予想となるが、直線距離２キロ以上の行政区の数より乗車数を推計している。

八屋小学校区では山田小学校区との境の前川地区の方で、大村小学校区では谷地区、宇島・千束小学校区は全員徒歩通学。角田・山田・横武小学校区は全員スクールバス。三毛門・黒土小学校区は一部がスクールバスとなっている。

文部科学省の基準では、小学校４キロ、中学校６キロ、通学時間１時間となっているが、小学校においては、通学距離２キロを基準に、中学校においては、通学距離６キロを基準に検討したいと考えている。

義務教育学校に関しては、現行通りの基準で考えており、表の人数は現在市バスの補助を利用している児童や地区から推計している。

【別紙４】横長の図。八屋中学校を中心に２キロの赤い円、千束中学校を中心に２キロの緑色の円、中部高校跡地を中心に６キロの青い円を描いたもの。

直線距離なので、実際の通学距離とは異なるが、参考資料としてみていただきたい。スクールバスについては本年度基本計画が策定され、スケジュールや概算工事費、設計準備等が確定してから、開校準備委員会の中で、地域や学校とも協議しながら、具体的に計画していきたいと考えている。

委員：スクールバス1台を運用するのにどれだけ1年間でかかるか計算しているか。

事務局：1台につき500～600万円ぐらいを想定している。

委員：スクールバスの運行については、地区や学校によって、クラブ活動の問題とか色々あると思う。事前にその問題については、検討しておいた方がいいのではないか。

事務局：各地区地区で違うし、学校の状況にもよるので、その点については開校準備委員会の中で、詰めていきたいと思っている。

委員：直線2キロ以上の行政区の児童はスクールバスに乗るが、自転車とかの人はいないのか。

事務局：小学校については自転車というのは考えていない。

中学校については自転車、何キロとかいうのは未定だが、自転車通学も考えている。

委員：1台の車が500～600万かかるなら、財政的なことで、幼稚園の様に保護者の送迎といったお願いというのは、難しいのか。幼稚園でも保護者が責任をもってしている。

事務局：今後の話し合いになると思うが、子どもたちとバス、保護者の方の車が敷地内に入ることは安全面から考えても想定していない。今後、保護者の方とも協議していかないといけない事項ではあるとは思っている。

④各学校別児童数推計について【別紙5】

事務局説明：角田地区の方より、公共交通機関とか慣習から、中央小学校よりも海側の北小学校の方を希望するというご意見があり、角田小学校区の子どもたちが中央小ではなく、北小学校の方に通学区域を変更した場合の児童数の推移を表したものが別紙の5になる。

今のまま、全体的に児童数が減少した場合、開校してから15年後には中央小学校が1クラスの学年が半数になると推測される。角田小学校からの距離はどちらの学校からもおよそ5kmで、全児童がスクールバス対象ということは同じになっている。市としては、いろんな学校から集まる中央小学校の方を提案している。

別紙5は、参考に見ていただきたいという資料。

委員：③に戻るが、スクールバスの運営について

学校単位である1ヶ所にまとまって、スクールバスの送迎っていうのを聞いたが、現実的ではないのではないか。

運用の方法についてはもう少し、細かく具体的な方法が必要なのではないか。

事務局：おっしゃる通りで、各学校の現状に合わせて、地区の現状に合わせて対応していきたい。特に、もう既に市バスを利用している地域があるので、そういう地域では、1ヶ所というわけにはいかないと思う。

これが確定しましたら、地域にご相談したいと思っている。

あと、現在の案については、中規模の小学校が維持できるように、人数的にも配慮した計画にはなっているが、角田地区の場合海から山まであり、角田地区の方は北小学校のイメージだったと思う。

だから、その辺をこの場で、皆さんのご意見を聞いて確定していきたい。

委員：先日の市の区長会の役員会の中で、角田地区の区長さんが意見として出されていた。角田地区は小中取られて非常に地域的に困る。小中合併の学校を一つできないだろうかというようなことを教育委員会に申し立てていると。

その点の話はいつているか。

事務局：地域からのご相談で出ている。

委員：出ているというのは、教育委員会の中で検討するということか。

事務局：小中一貫は、もう既に小規模特認校としての実績ある合岩地区と答申通り考えている。

長い間小規模特認校で独自の教育方針を出して行っており、小学校も新しい。半数が地区外から来ており、このまま実績を活かして、義務教育学校でと教育委員会では考えている。

5. 次回日程について

9月の下旬か10月の上旬に開催したい。

6. 閉会